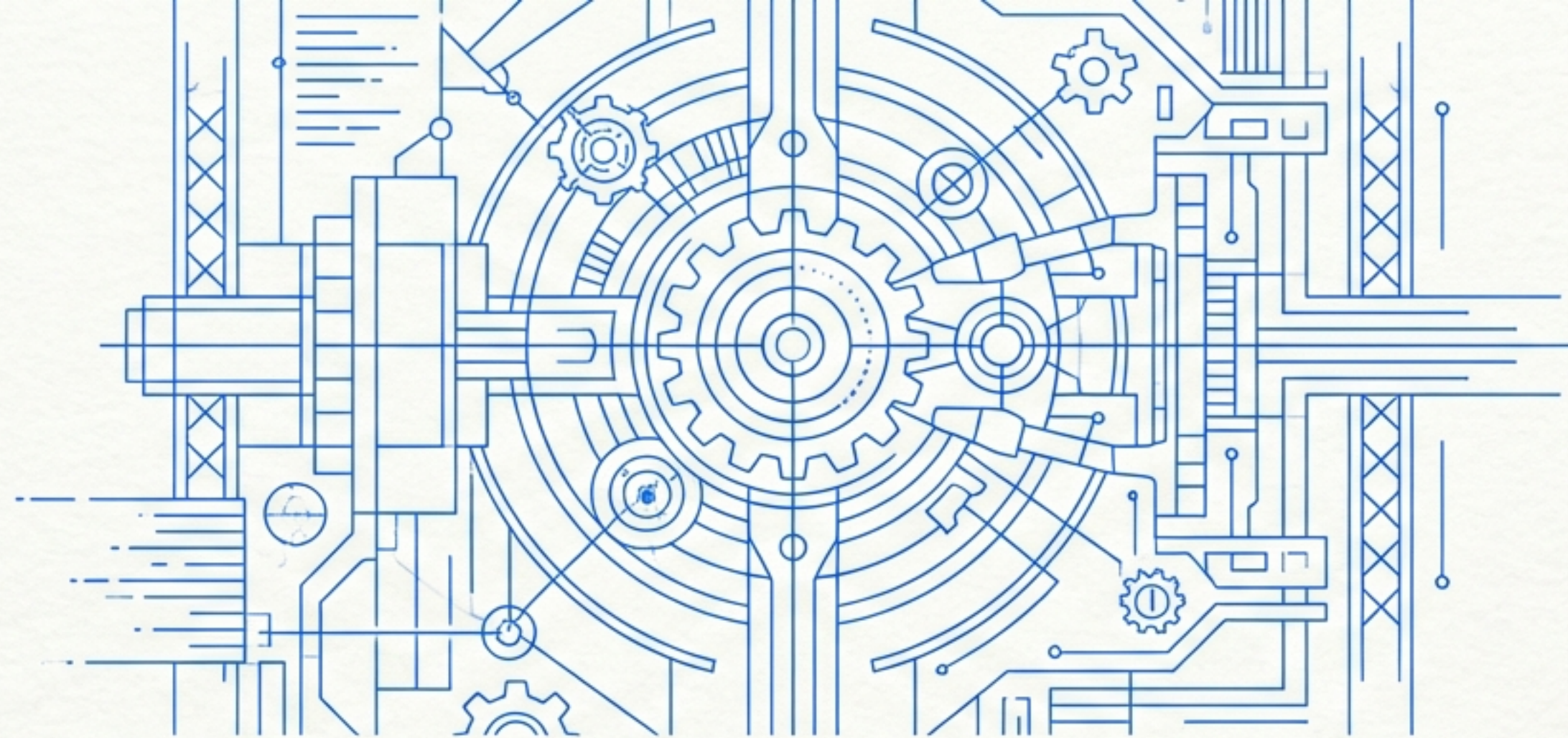




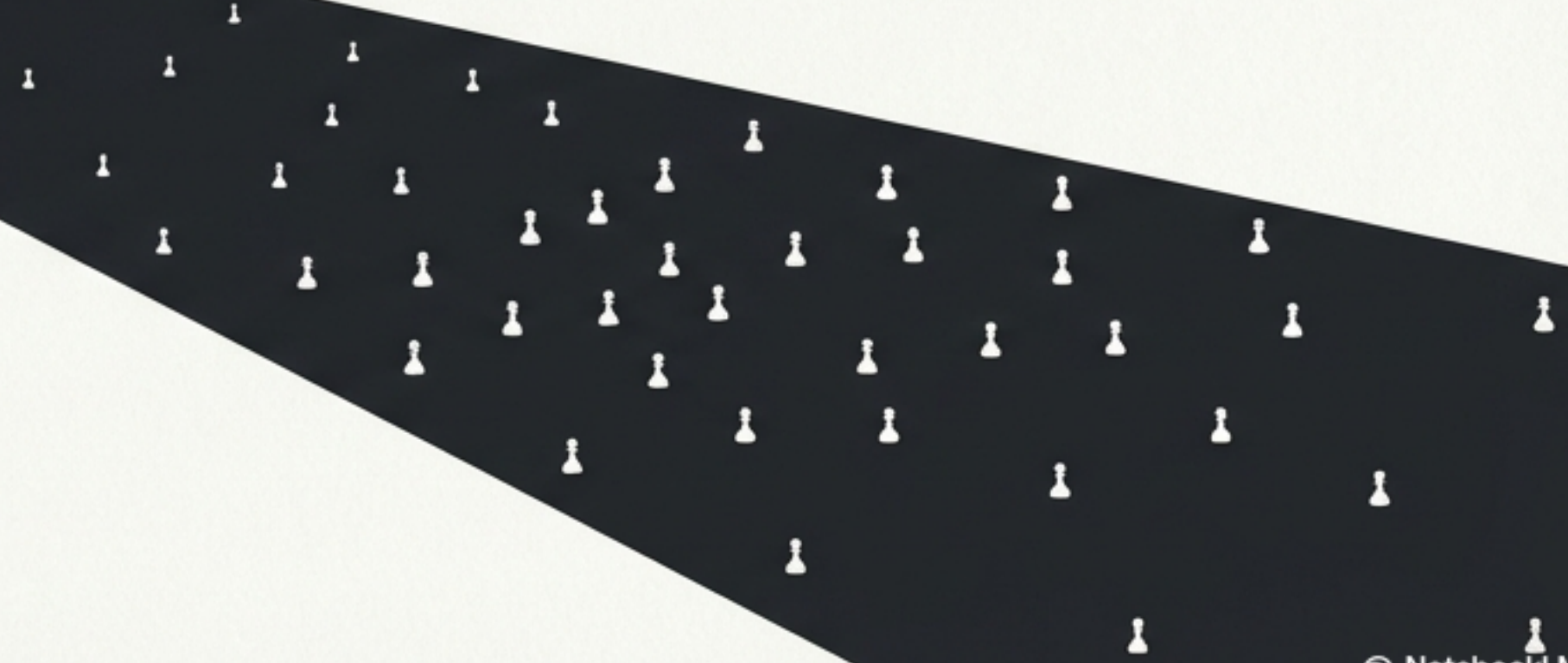
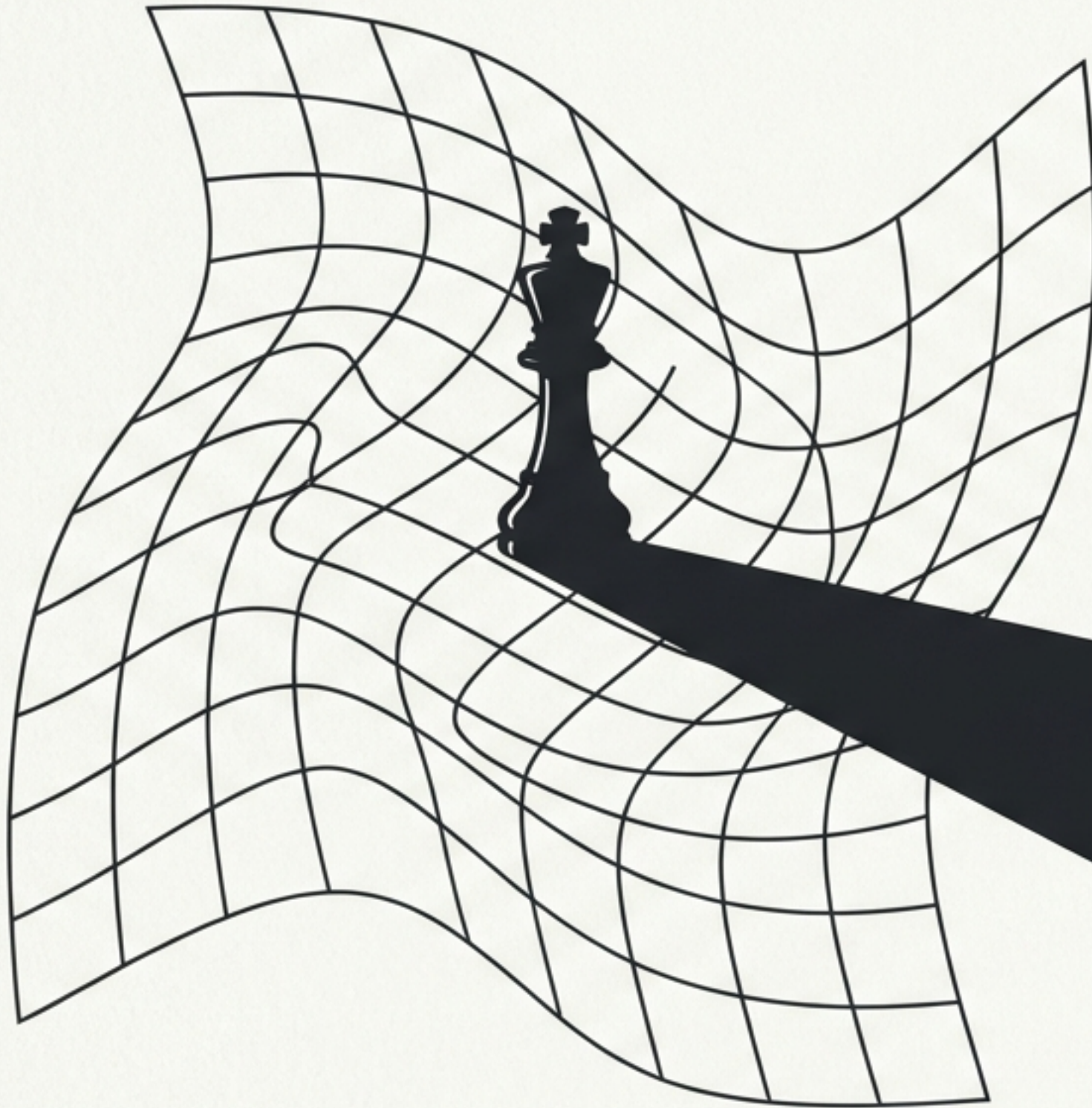
仕手株投資の専門戦略書

失敗を最小限に抑え、損失を利益に変えるための8つの鉄則

投資における「失敗」は、資金を失うことを意味する。特にハイリスク・ハイリターンな仕手株の世界では、その影響は甚大だ。この戦略書は、その危険な領域で生き残るための思考法をまとめたものである。

ゲームの支配者： 「仕手筋」を理解する

仕手株の価格を動かすのは、市場心理でも企業価値でもない。それは「仕手筋」と呼ばれる巨大な投資ファンドや投機家グループの意図である。彼らは情報操作に長け、市場を意のままに操る。個人投資家の成功は、彼らの行動をいかに読み解くかにかかっている。



生存と勝利のための8つの行動規範



1. 買のタイミング



2. 売のタイミング



3. 塩漬けの回避



4. 損切りの原則



5. 銘柄の選定



6. 分散の真意



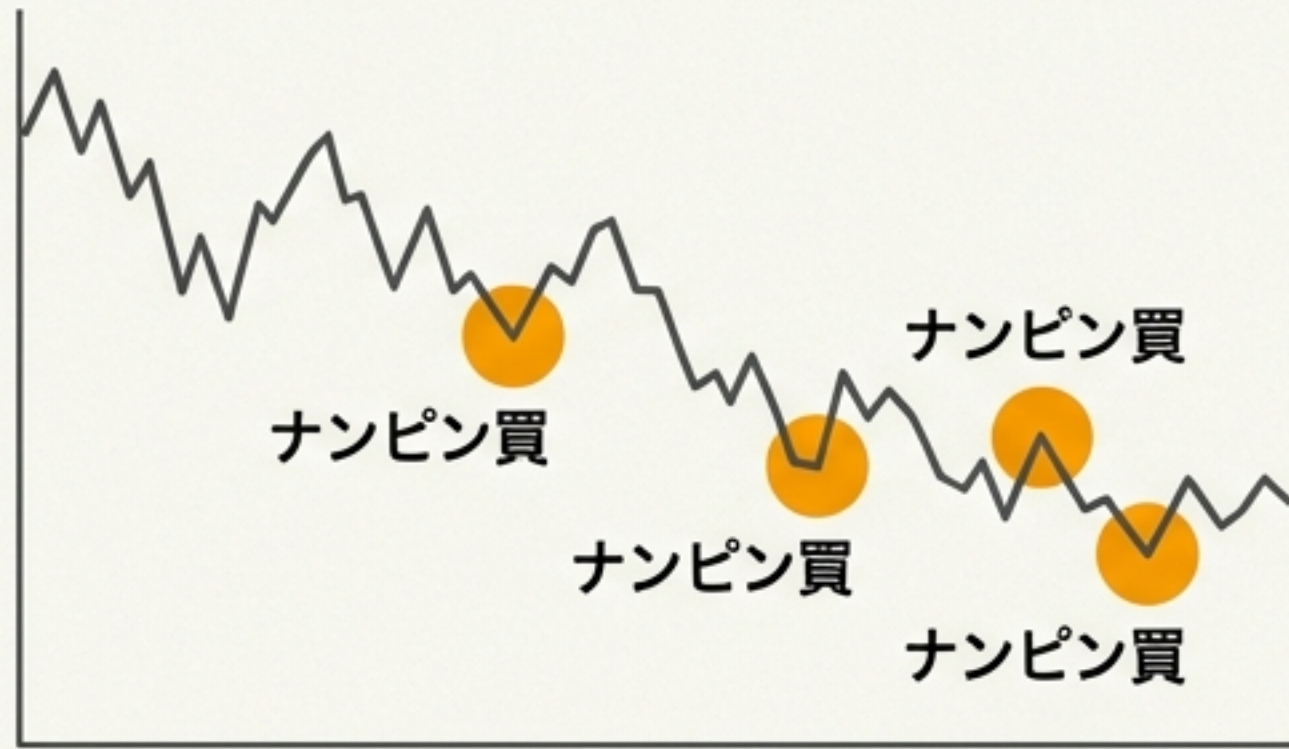
7. IRとの距離



8. 唯一の指標

鉄則 1: 「買」 — 衝動ではなく、合図を待つ

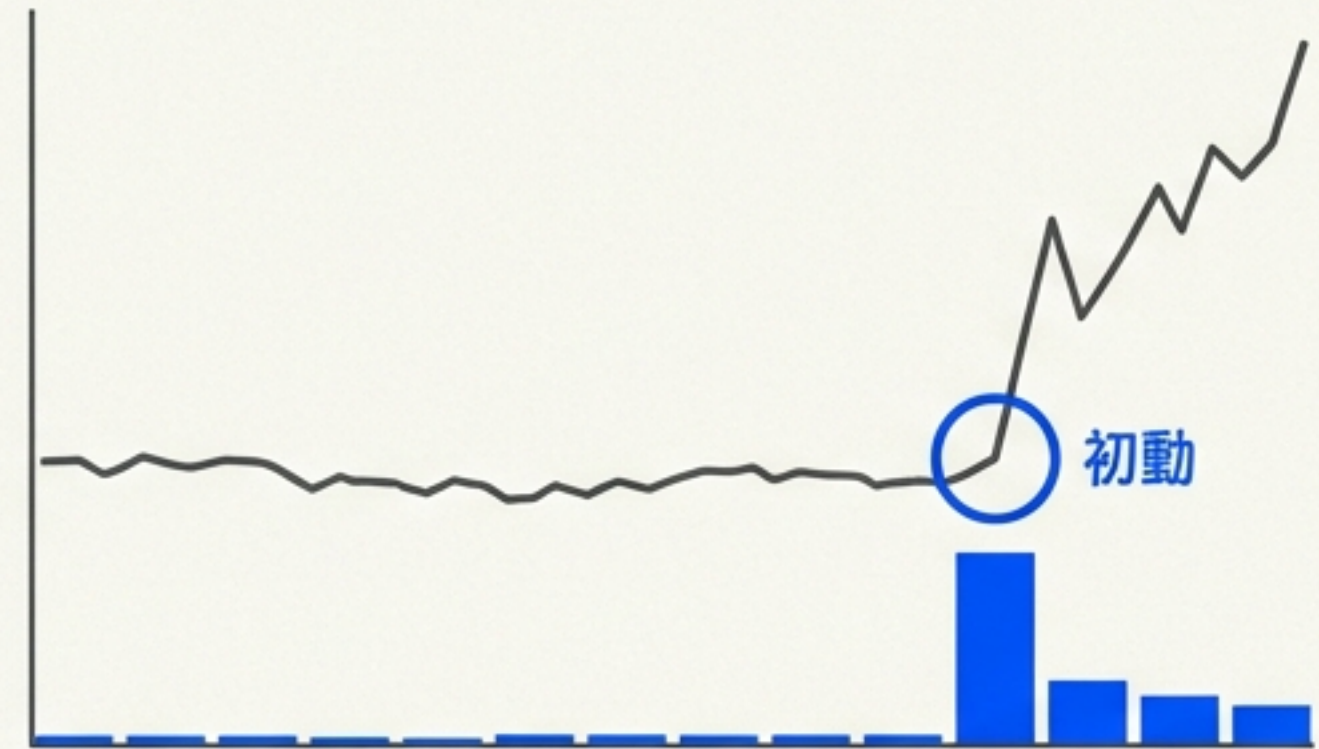
素人の罠



- 大きく下落したから
- 最安値更新後だから
- ナンピン買で平均単価を下げる

結果：上昇の兆候なく、資金が拘束される。

プロの規律



- 取引の瞬間は「初動」のみ。
- 初動とは「出来高を伴った上昇」のこと。

結論：初動まで我慢強く待ち続ける。
早まった取引は確実な損失に繋がる。

鉄則 2: 「売」 — 欲望ではなく、感覚に従え

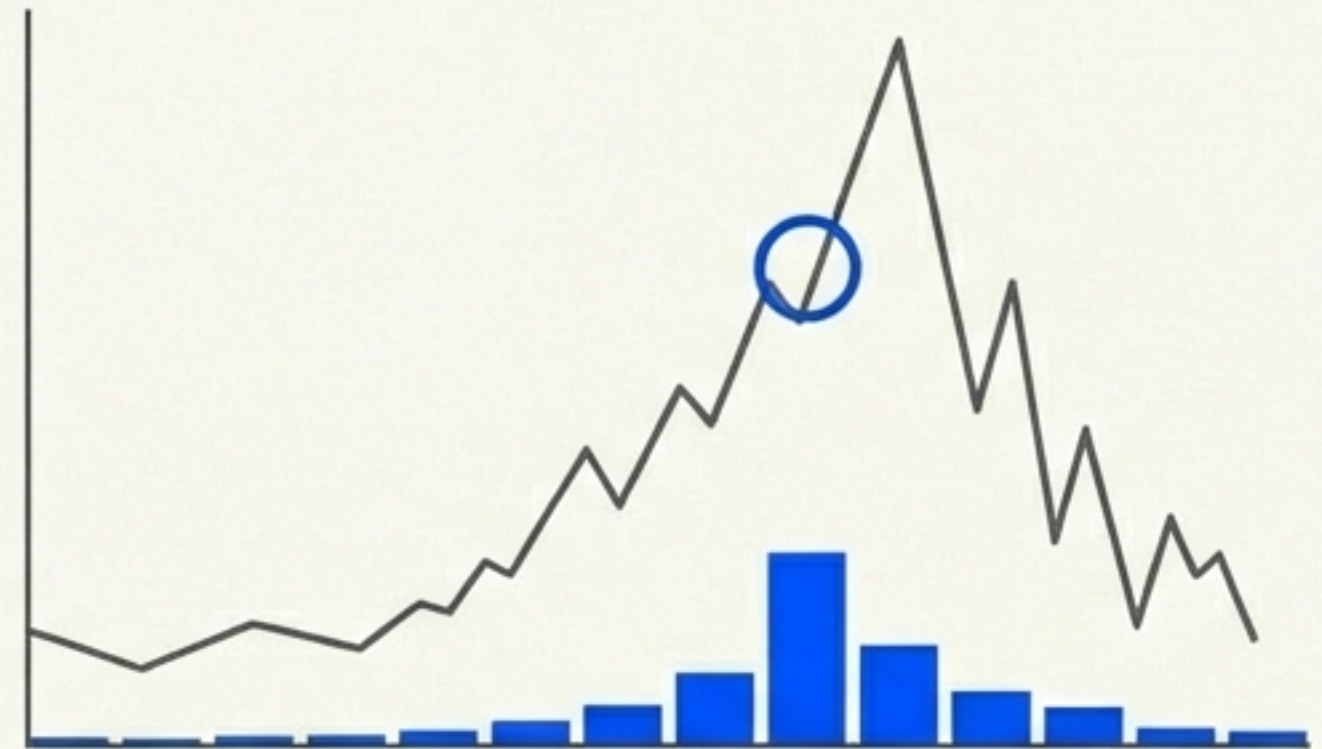
素人の欲望



- 「あともう少し上昇したら…」
- 「〇円を超えたら…」
- 「〇倍になったら…」

結果：タイミングを逃し、得られたはずの利益さえ失う。

プロの判断



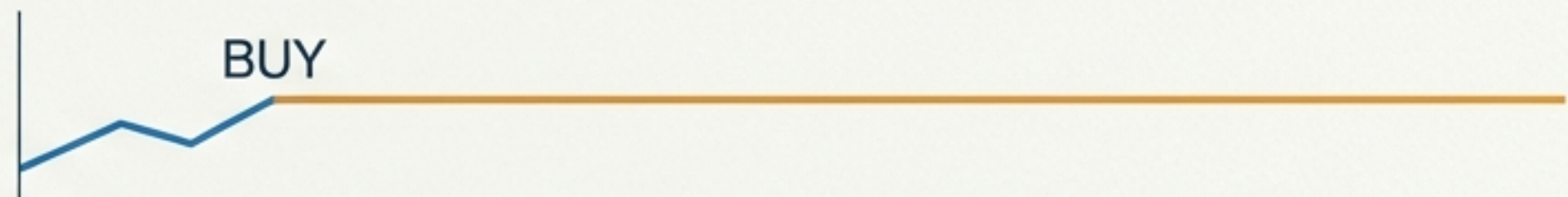
- 取引のタイミングは「出来高を伴った上昇が続いたとき」。
- 最高値での利益確定を狙わない。

結論：相場の感覚で売取引のタイミングを決める。

鉄則 3 & 4: 判断ミスの代償 — 「塩漬け」と「損切り」



塩漬け (Stuck Stock)



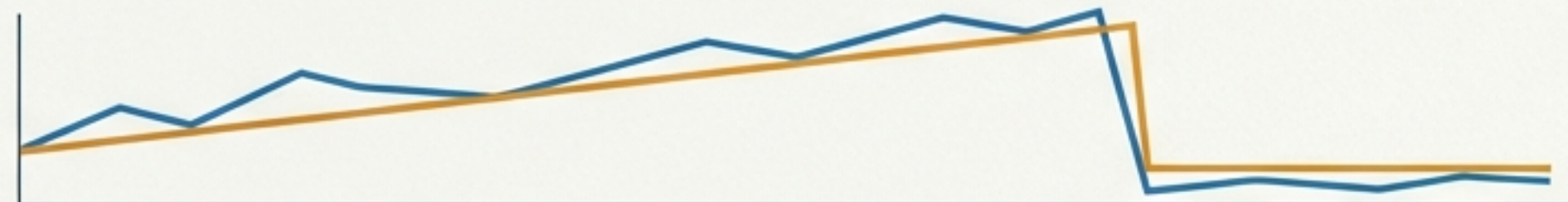
原因:

1. 初動の前に買い、上昇が来なかった。
2. 上昇中の株に飛びつき、仕手戦が終了した。

回避策: 買収|のタイミングを絶対に間違えないこと。



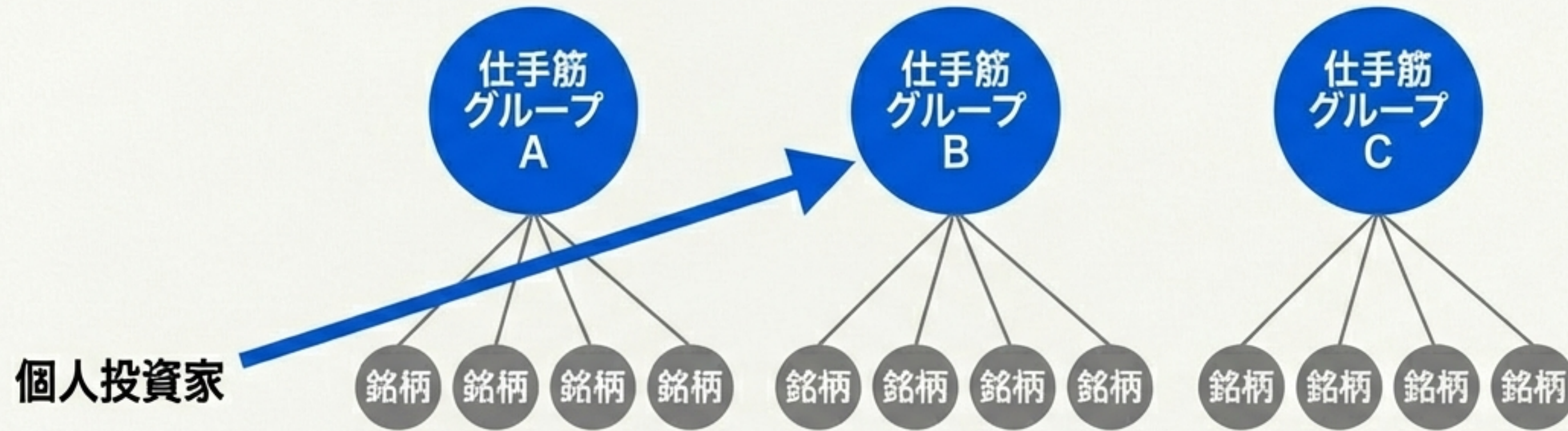
損切り (Stop-Loss)



タイミングさえ誤らなければ、損切りの機会はほとんどない。
例外は「相場が急変したとき」のみ。

原則: 機械的に損切りする仕組みを作る。感情を挟まない。

鉄則 5: 「選」 — 銘柄ではなく、仕手筋を選ぶ



一般的な勘違い：自分が有望な仕手株を見つけ出す。

この世界の真実：どの銘柄を動かすかは、仕手筋（投資ファンド）がすでに決めている。

投資家のタスク：

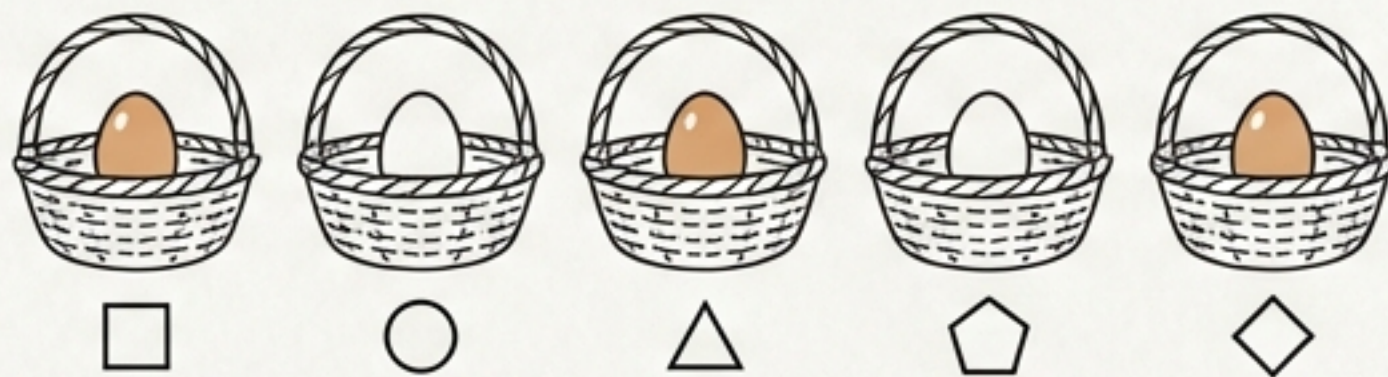
- 「仕手株を選ぶ」のではなく、「どの仕手筋のグループに乗るか」を選ぶ。
- さらに言えば、投資対象は「初動が近い仕手株」のみ。選ぶという概念すらない。

結論：信用できる仕手筋（投資ファンド）に任せる。

鉄則6：「分」— リスク分散ではなく、機会損失の回避



集中投資



仕手株



一般的な分散投資：株、為替、仮想通貨など、異なる商品に分散する。

仕手株における分散投資：「一つの仕手株に集中投資」ではなく「複数の仕手株に分散投資」する。

一番の狙い：リスクの分散よりも、「機会損失をなるべくなくす」こと。

理由：どの仕手株がいつ「初動」になるかは予測不可能。常に複数の候補を監視し、取引できるように準備しておく必要がある。

結論：多くの初動を捉えることが、失敗しないことに繋がる。

鉄則 7 & 8: 「情報」 — ノイズを遮断し、唯一のシグナルに集中する



Section 1: IRやSNSは反応しない (Ignore IR and SNS)

- ・ 仕手筋は情報操作のプロ。IRやSNSは株価を動かすための道具。
- ・ 過剰に反応すると、彼らの思うがままに操られる。
- ・ **原則**：いちいち反応しない。

Section 2: 指標は「出来高」のみ (The Only Indicator is Volume)

- ・ チャートには無数の指標が存在するが、惑わされてはいけない。
- ・ 最も重要な指標は一つだけ。「出来高」である。
- ・ **理由**：仕手筋（投資ファンド）の行動が出来高に表れるから。
- ・ **原則**：一つの指標に絞って分析する。

投資の本質：利益の追求ではなく、損失の管理

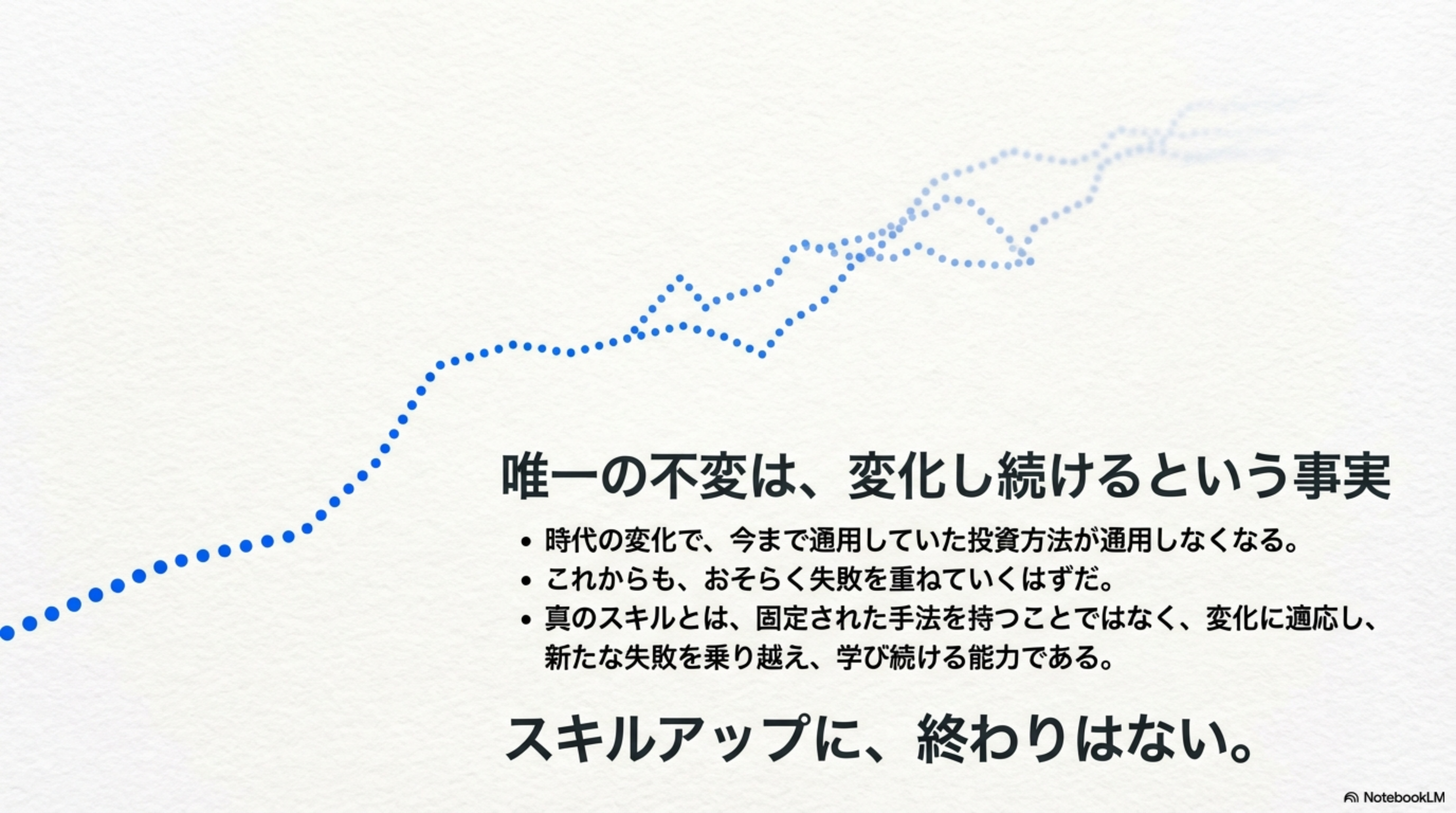


「投資の世界で生きていくには、いかに損失を減らせるかだと思う。」

多くの失敗と損失を経てたどり着く境地。

ルールは、大きな利益を得るためではなく、致命的な失敗を避けるために存在する。

利益は、正しいプロセスを繰り返した結果として自然についてくる。



唯一の不変は、変化し続けるという事実

- 時代の変化で、今まで通用していた投資方法が通用しなくなる。
- これからも、おそらく失敗を重ねていくはずだ。
- 真のスキルとは、固定された手法を持つことではなく、変化に適応し、新たな失敗を乗り越え、学び続ける能力である。

スキルアップに、終わりはない。